



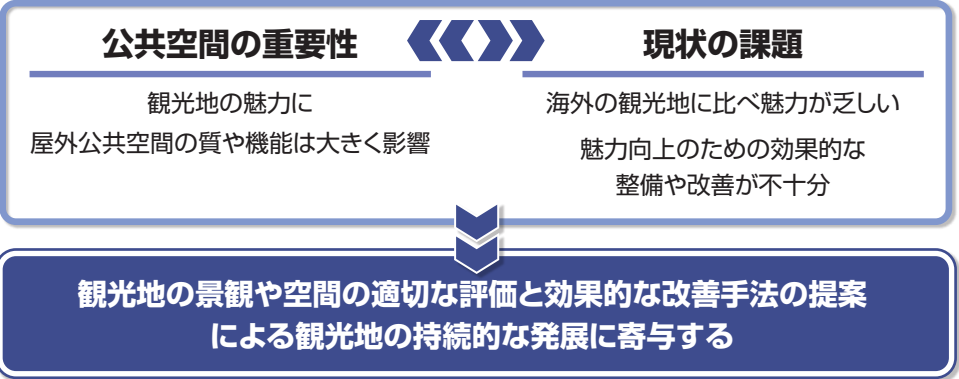
国立研究開発法人
土木研究所 寒地土木研究所
北海道札幌市豊平区平岸 1 条 3 丁目 1-34
TEL : 011-590-4044
E-mail : scenic@ceri.go.jp

松田 泰明 / 笠間 聡

観光地の屋外公共空間の魅力に寄与する “パターン”の試案を用いた観光地評価の 試行と有効性の検証

研究の背景と目的

観光地の魅力、屋外公共空間の魅力

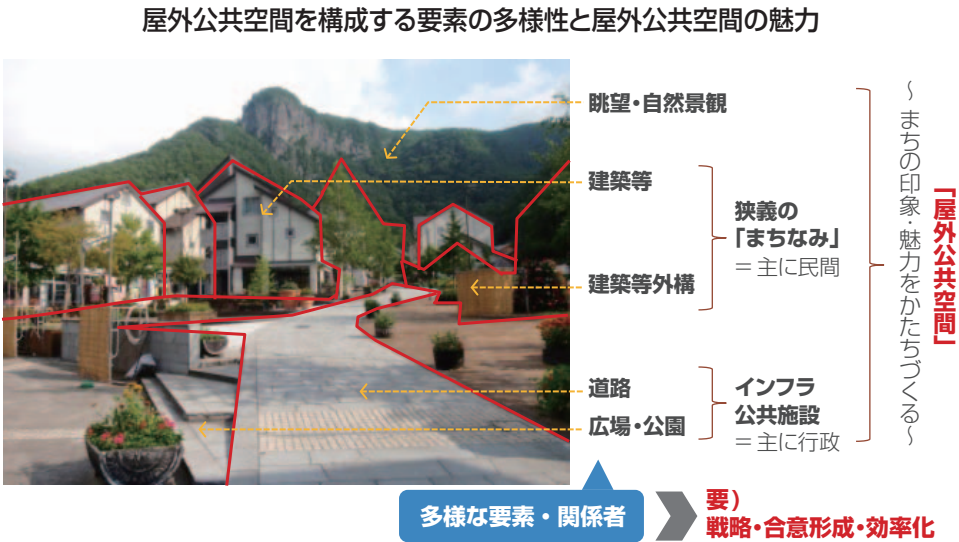


研究の方法

パターン・ランゲージ

著書「A Pattern Language」(1977、C・アレグザンダー)は、具体の建築や都市の洞察・研究・実践を通じ、それらの理想的な姿の断片を253の「パターン」で提示している。

本研究では、具体の観光地の事例収集や分析を通じ、観光地の魅力向上に寄与していると考えられる、観光地共通の特性(パターン)の抽出を行った。



調査・分析(パターン抽出)の対象地

分析の対象とした観光地：温泉街

本研究では、観光地の中でも「温泉街」に着目して調査と分析を行うこととした。これは以下の理由による。

- **全国各地に有する**
- 分析に適した、**徒歩圏規模^{*1}の独立性^{*2}の高い集落形状を成す**
- **「滞在」に重点が置かれ、「物見」対象**(文化財や歴史的資源等)の**有無やその評価に、影響を受けにくい**
- **既存資料**(民間調査のランキング等)を利用し、**高評価とされる観光地の抽出が可能**

注1、2「徒歩圏規模」と「独立性」について

徒歩圏規模 本研究では、観光地の屋外公共空間の様態と、観光地の魅力との関係性について分析を行うことから、対象規模(範囲)を限定し、主要因を明確化することが望ましいと考える。

一方で、公共の空間を研究の対象とする立場からは、単独の観光スポットだけを研究の対象とすることは不適当であり、適切な規模を設定する必要がある。

そこで、観光地の単位を徒歩圏規模、およそ直径1km程度のまとまりで考えることとした。

観光地単位の独立性 観光地の単位が連担したり、互いに影響を及ぼし合い、外的要因の影響をうけることは分析の支障となる。

そこで、神戸や函館のような都市型の観光地を避け、比較的独立性の高い観光地を研究の対象とすることとした。

注3 以下の資料等を参考に選定

- ・リクルートじゃらんリサーチセンター：人気温泉地ランキング調査2016
- ・旺文社：ことりつぶ
- ・Michelin Apa Publication Ltd.：Michlin The Green Gude JAPAN, 2012

選定した6つの温泉街



抽出された「6のパターン」

観光地の魅力向上に寄与する可能性のある屋外公共空間のパターン

選定した6温泉街に関する現地調査・ヒアリング調査の結果、共通点として、以下の6つが抽出された。

これら「6のパターン」は、全国で高評価な6の温泉街型観光地の共通点であり、観光地の高評価に寄与する一因である可能性がある。

① 屋外での時間の過ごし方の提供

観光客に散策や回遊を促すものとして、観光地の側から、屋外に繰り出す理由や目的が提供されており、また、それが広く観光客に受け入れられている。

② 観光地のアイデンティティとなるような象徴景

当該観光地に滞在することの魅力強く印象づける風景(象徴景)が存在する。

そのような象徴景は往々にして、当該観光地の名刺代わりとなり、観光ガイドの扉写真や観光ポスター等に広く採用されている。

③ 豊かな自然と一体化した街並み

周囲に山林や農村などの豊かな自然環境があり、観光地の中核からそれらを見通すことができる。また、街中にそれらの自然環境とつながりのある要素がちりばめられている。

これらにより、周囲の豊かな自然と街並みの一体感が感じられる。

④ 景観に優れた適度な長さの散策路

景観に優れた環境の中をゆっくりと散策できる環境が整っている。

それにより、日常とは異なるその地ならではの世界観に十分に没頭できる。

⑤ 散策や滞留の拠点となる広場等

散策や滞留の拠点となり、休憩、写真撮影などに利用できるゆとりある広場等が、観光地の中核に存在する。

そのような広場等では、居ながらにして、観光地の風景や風情を心ゆくまで楽しむことが出来る。

⑥ 歩行者優先の街路空間

往来する自動車に観光を阻害されないことがない。



「6のパターン」を用いた観光地の評価の試行

先の6温泉街＋北海道の5温泉街と草津の計12温泉街を対象に6パターンに基づく評価を試行し、その適用可能性を確認。

さらに温泉地以外のタイプの違う2観光地(小樽・小布施)で評価を試行。

評価方法	各観光地における「6のパターン」への適合の評価結果					
	先の6温泉街					
	黒川	由布院	有馬	城崎	加賀山中	野沢
1. 屋外での時間の過ごし方の提供	◎入湯手形	○店舗の集積	○店舗の集積	◎外湯めぐり	◎鶴仙溪川床	◎外湯
2. 観光地のアイデンティティとなるような象徴景	◎丸鈴橋	○湯の坪街道	○金の湯	◎大谿川柳並木	△鶴仙溪川床	△大湯・麻釜
3. 豊かな自然と一体化した街並み	◎	◎	◎	◎	◎	△
4. 景観に優れた適度な長さの散策路	◎川端通り等	◎湯の坪街道	◎湯本坂等	◎大谿川沿い等	◎鶴仙溪/ゆげ街道	×
5. 散策や滞留の拠点となる広場等	◎丸鈴橋	△駅前/金鱗湖	○ねね橋/金の湯	◎大谿川の石橋群	○菊の湯前広場	△
6. 歩行者優先の街路空間	○	○	○	○	△	○
6のパターンへの適合点数(最大9.0)	8.5	6.5	7.0	8.5	6.5	4.0

	北海道の温泉街			北海道以外の温泉街			一般の観光地		
	登別	洞爺湖	定山溪	阿寒湖	層雲峡	草津	小樽 (運河) (境町通り)	小布施	
1. 屋外での時間の 過ごし方の提供	○ 地獄谷 散策	×	△ 足湯・ かつばめぐり	○ 店舗の集積	×	○ 湯畑周辺 散策	△ 運河 クルーズ	×	◎ オープン ガーデン
2. 観光地のアイデンティティ となるような象徴景	△ 地獄谷	△ 洞爺湖・中島	○ 豊平川・溪谷	△ 阿寒湖	○ キャニオン モール	○ 湯畑と街並み	◎ 小樽運河	×	○ 栗の小径
3. 豊かな自然と 一体化した街並み	△	△	◎	△	◎	◎	○	△	◎
4. 景観に優れた 適度な長さの散策路	△ 地獄谷 周辺	△ 湖畔遊歩道	△ 豊平川・溪谷	○ 湖畔遊歩道	△ モール200m	◎ 湯畑周辺	○ 小樽運河 周辺	○	◎ 修景地区 一周
5. 散策や滞留の拠点 となる広場等	○ 泉源公園	◎ 湖畔遊歩道	◎ 月見橋	◎ 湖畔公園	○ キャニオン モール	◎ 湯畑周辺	○ 浅草橋	△ メルヘンの 広場	◎ 笹の広場
6. 歩行者優先の 街路空間	○	×	○	△ 中央通り	◎ キャニオン モール	○	○ 運河通り	×	○
6のパターンへの 適合点数(最大9.0)	4.5	4.0	6.0	5.0	5.5	8.0	(6.5)	(2.0)	8.0

新たなパターンの提案

これまでの調査だけでなく、その他の観光地の調査もふまえ、新たに「その観光地にいることを感じられる快適な休憩の提供」も重要なパターンの候補として抽出した(写真1,2,3)



写真の出典 写真1：日刊トラベルニュースHPより 写真2：Nostalgic Landscape HPより

小布施町の事例

- パターン1** 屋外での時間の過ごし方の提供
- ◎おぶせオープンガーデンの取り組みなど(写真1)
- パターン2** 観光地のアイデンティティとなるような象徴景
- 栗の小径、笹の広場など(写真2,4,5)
- パターン3** 豊かな自然と一体化した街並み
- ◎周囲に自然は少ないものの、樹木や笹を街並みや通りに取り込んでいる(写真2,3,4)
- パターン4** 景観に優れた適度な長さの散策路
- ◎栗の小径～修景地区を半周で約500m(写真2,4,5,6)
- パターン5** 散策や滞留の拠点となる広場等
- ◎笹の広場(写真4,5)の他、小さな滞留ポイントが少なくない
- パターン6** 歩行者優先の街路空間
- 北斎館通り(写真6)、栗の小径など(写真2)
- (ただし国道・県道は歩道が狭く、散策によい環境ではない)



小樽市の事例

- パターン1** 屋外での時間の過ごし方の提供
- (運 河)△小樽運河クルーズ(有料)(写真1)
- (堺町通り)×なし
- パターン2** 観光地のアイデンティティとなるような象徴景
- (運 河)◎小樽運河(南運河)の風景視点場も多く存在(写真2,3,5)
- (堺町通り)×歴史的建造物群は魅力あるが象徴的(写真7)
- パターン3** 豊かな自然と一体化した街並みではない
- (運 河)○小樽運河(南運河)と倉庫群自然石を多用した街並み(写真3,4)
- (堺町通り)△遠方に眺望できる対象はなく、石造りの建物はあるものの、街路に緑はほとんどない(写真9)
- パターン4** 景観に優れた適度な長さの散策路
- (運 河)○小樽運河、約500m(南運河：運河の水面、植栽、眺望)(写真2,4,6)
- (堺町通り)○北のウォール街～堺町通り、沿道の歴史的建造物群、約1km(写真7,8,9)
- パターン5** 散策や滞留の拠点となる広場等
- (運 河)○浅草橋など(写真5)
- (堺町通り)△メルヘン広場は、立地・眺望・使われ方に難あり(写真8)
- パターン6** 歩行者優先の街路空間
- (運 河)○運河通りの歩行空間は車道と隔離され広さも適度(写真4,6)
- (堺町通り)×車優先の道路空間、歩道幅も狭い(写真9)



まとめ

- 1 国内外で評価の高い全国6の温泉街型観光地から、その屋外公共空間の共通点として、「6のパターン」を抽出
- 2 これらのパターンについて、温泉街型観光地以外への適用性を検証するため、タイプの違う2観光地の評価を試行し、その適応可能性を確認
- 3 これらに基づき、12の温泉街型観光地の屋外公共空間の評価を試行
- 4 新たなパターンとして、「その観光地にいることを感じられる快適な休憩の提供」を抽出

今後に向けて

- 1 これらのパターンの妥当性の検証と温泉街型観光地以外への適用可能性の検討
- 2 観光地のタイプ別も考慮した6パターン以外のパターン候補の拡充